中止乗り越え 待望の秋

愛知大学野球 きょう開幕

愛知大学野球秋季リーグ（中日新聞社後援）の１部は29日、名古屋市のパロマ瑞穂球場で開幕し、７週にわたって優勝を争う。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、春季リーグは中止。1949年秋にリーグ戦が始まって以来、初めての事態だった。

大学が閉鎖されるなど各校の選手は約２カ月、自主練習を余儀なくされた。全体練習再開後は、実戦感覚を取り戻すことに腐心してきた。４年生は最後のシーズンに並々ならぬ決意で臨む。デビューを待たされた１年生にもようやく活躍の場が与えられる。さまざまな思いが交錯し、例年以上に熱戦が期待できそうだ。

秋季リーグへの意気込みを語る1部6校の監督。下は開幕予想と先発メンバー。

中京大
半田卓也監督

(右) 岡田 ①
(指) 杉谷 ④
(中) 河田 ④
(一) 松井 ④
(左) 沢井 ②
(三) 加藤大③
(二) 井戸田③
(捕) 福島 ④
(遊) 小河内④

中部大
堀田崇夫監督

(中) 丹下 ④
(右) 杉本 ③
(左) 梶田 ③
(指) 大高 ④
(一) 長谷坂③
(三) 大西一②
(遊) 牛島 ③
(捕) 城野 ③
(二) 山下 ③

愛工大
平井光親監督

(中) 後藤 ②
(右) 近沢 ②
(遊) 平本 ④
(指) 中井 ④
(左) 岡田 ④
(二) 尾浜 ④
(一) 寺坂 ④
(遊) 渡辺毅④
(捕) 矢野 ④

名城大
安江均監督

(二) 藤田 ②
(一) 村西 ④
(三) 坂上 ③
(指) 大川 ③
(左) 中村峻④
(捕) 野口 ②
(右) 鷲見 ①
(遊) 飯田 ③
(中) 川崎 ④

東海学園大
鈴木保監督

(中) 清水唯②
(右) 山本陸①
(遊) 野瀬 ④
(指) 名古路③
(左) 吉田 ③
(一) 村口 ③
(三) 藤田健②
(捕) 倉田 ④
(二) 坂口 ③

愛院大
益田明典監督

(遊) 鈴木 ②
(中) 井手口②
(二) 渡辺豪④
(指) 河村真③
(一) 下川 ②
(右) 山内 ②
(左) 岡田 ③
(捕) 太田 ④
(三) 恒川 ②

中京、中部、愛工大軸に 1部展望

各校ともコロナ禍で実戦不足は否めない。開幕に向け、急ピッチで仕上げてきた。優勝争いは昨年の実績から中京大、中部大、愛工大が軸となりそう。ただ名城大、東海学園大、愛院大も戦力の底上げができた。６校に大きな力の差がないため、最後まで目が離せない混戦が予想される。

昨秋の覇者、中京大は経験豊富な選手がチームを引っ張る。投手陣は４年生の初祖（ういそ）、左腕山本が先発の柱。左腕伊藤稜、漢人（かんど）らが控える。打線も河田、松井、沢井の中軸は長打力を秘める。１年生岡田の力ができた。６校に大きな力の差がないため、最後まで目が離せない混戦が予想される。

番の出塁率が高い。１番丹下は２季連続で打率４割をマークし、２番杉本は昨秋の首位打者。打線の中軸は後藤、平本、中井、岡田、尾浜ら昨春の優勝メンバーが名前を連ねる。

昨秋２位の中部大は、２足を絡めた攻撃ができる上、勝負強さもある。エース新村も健在。ただ左腕室田、高井はけがから復帰したばかりで投手陣に不安を残す。打線の援護でカバーする。

２名城大は昨秋、２試合連続完封後に右肩を痛めた二宮の復調が心強い。成田、岩崎らがエースを支える。最速１４５キロの１年生松本も期待できる。打線は昨年、春秋ともに好調だった後足の小林をけがで欠くのが痛い。４年生の村西、中村峻を中心につないでいく。

東海学園大は左腕木原に安定感が増した。今野、南出に加え、浦野、増山の両左腕らが中心。経験が浅い分、上級生の３番渡辺豪、４番河村真駒は豊富になった。打線は清水唯、１年生山本陸の１、２番が俊足。出塁して相手バッテリーを揺さぶり、力がある野瀬、名古路、吉田の中軸につなぐと得点力が増す。

５位の１年生松本も期待できる。打線は昨年、春秋ともに６位と低迷した愛院大は若い力で巻き返しを図る。投手陣は佐藤良、左腕荒島が軸。左腕池村、三島有の１年生バッテリーも誕生しそう。打線は２年生の３番渡辺豪、４番河村真加え、浦野、増山の両左腕らがけん引する。

1部の試合日程

8・29	中京大	愛工大	名城大	パロマ瑞穂	
30	名城大	愛工大	愛院大	パロマ瑞穂	
9・5	中京大	東海学園大	中部大	名城大	愛工大	愛院大	パロマ瑞穂
6	東海学園大	中京大	愛院大	愛工大	名城大	中部大	パロマ瑞穂
12	中部大	愛院大	愛工大	東海学園大	豊田		
13	東海学園大	愛工大	愛院大	中部大	豊田		
19	中京大	名城大	中部大	東海学園大	愛工大		
20	東海学園大	中部大	名城大	中京大	パロマ瑞穂		
26	中京大	愛工大	名城大	愛院大	豊田		
27	愛院大	名城大	愛工大	中京大	豊田		
10・3	中部大	愛工大	名城大	東海学園大	パロマ瑞穂		
4	東海学園大	名城大	愛工大	中部大	パロマ瑞穂		
10	中京大	中部大	東海学園大	愛院大	パロマ瑞穂		
11	愛院大	東海学園大	中部大	中京大	パロマ瑞穂		

（注）対戦カードの右は球場。第1試合は10時開始で、1日3試合の日は9時開始。

2、3部の各校

【2部】
〈A〉愛知産業大、愛知東邦大、同朋大、愛知学泉大、至学館大、名古屋大
〈B〉名古屋学院大、愛知大、日本福祉大、名古屋商科大、星城大、名古屋産業大

【3部】
〈A〉愛知淑徳大、名古屋市立大、名古屋工業大、※名古屋外国語大、※豊橋技術科学大
〈B〉名古屋経済大、愛知教育大、南山大、大同大

※は不参加

「人間形成の機会」連盟、コロナ対策徹底

春季リーグの中止決定以降も新型コロナの収束の兆しはいっこうに見えてこない。愛知大学野球連盟は秋季リーグ開催に際し、何度も議論を重ねてきた。同連盟の新井野（にいの）洋一理事長＝写真＝は「大学野球は人間形成の場で、成長のチャンス。１年もその機会を奪いたくない」と開催決定に至った経緯を説明した。

ただ練習の自粛期間や環境など各校の事情は異なる。試合ができる喜びからチームの全体練習が一段と熱を帯びてくるチームもある一方で、「開幕まで十分な準備ができない」などの理由で３部の２校は不参加となった。

もちろん開催が決まったからといってゴールではない。コロナ対策はこれからがスタート。全ての試合を無観客（控え選手、選手の家族、連盟から許可を得た者は除く）で実施することも決まった。

同連盟は感染防止のガイドラインを策定。連盟関係者や各チームに移動時はマスクの着用、球場入場の際は検温を求める。試合中も選手にはベンチでの指示や声掛けを禁止し、スタンドの控え選手らにも２mの間隔をとって濃厚接触を避けるように徹底させる。

さらに選手の健康面を配慮し、試合が九回で決着がつかなかった場合は、延長十回からタイブレーク制（無死一、二塁からスタート）を採用する。また例年通り１部は勝ち点制で優勝を争う形で始めるが、新井野理事長は「感染状況などにより勝率制で優勝校を決める」ことも「あり得る」としている。

また今年は東海地区、北陸との３連盟王座決定戦がパロマ瑞穂球場で行われる予定。10月31日の開幕に向け、準備を進めている。地元開催のため優勝校に加え、２位校にも出場権が与えられる。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています